

生きている時も死んでゆく時も、神は私たちと共におられる。神は私たちのなかに宿る。それは正確に何を意味しているのだろうか？ Abiding（共にいる、宿る、住む）。

神は私たちと共におられる（ヨハネ14:17）を語る時、神は私たちと住んでいると理解する。いろいろな形で、この“とどまる”という経験をしている。どのように神は私たちととどまっておられるかをイメージするために、これを思い起こさせる一覧表を作ってみよう。隠喩（メタファー）と像（心に描く）を使って、神の大部分を想像するのに役立たせる。神は一つのイメージだけに含まれない。神を想像するすべての方法は、少しだけ正確で少しだけ不正確である。それでもすべてのイメージから学ぶことができる。

さらなるイメージを浮かばせると、神についてさらに学ぶことができる。

今日、私は表を提供しよう。すべての異なった方法で“神は私たちと共におられる”事に私たちは気付くことができる。すべてのこれらのイメージを使って、折々に暮らしの中で想像することを勧めたい。ある時は神を治療者や教師として必要とする。ある時は、神を審判者として必要とする—それは神の道へ厳格に戻ることを命じられているからである。

（ある時は、神の道が私たちの道ではなく、私たちがさ迷っているのを確実に気付く必要がある。神の許しを信頼して、私たちの側におられる審判者としての神を見ると、他のすべてのイメージと同様に好きになる）。

神のイメージ表を持つ事は、共同社会や暮らしに神の臨在をさらに見る切っ掛けとなる。

なじみ深いイメージから始めよう。神は共におられる—私たちと共に歩む友のようである。例えば、私たちの多くは夢で詩を聞いている。ある人が自分の人生を振り返ると、砂の上に足跡のような人生を見た。その人は人生の中で最も困難で最も悲しい時を見たのだった。そこには唯一の足跡だけがあった。人々は困難な時にイエスが彼らを見捨てたと非難した。イエスは答えられる、一組の足跡があった所は、イエスがその人の重荷を痛感していた時であった。イエスは私たちと共にとどまられる。このイメージの中で神の友愛に気付く。交わり、助け合い、そして安らぎ近いものに気付く。

神が共にいるイメージが他にもある。

私は母めんどりのようなイエスが大好きである。イエスは言う、「めんどりがひとかえりの雛を羽の下に集めるように、あなたの子供を共に集める望みを何度も持っている」。神はめんどりが雛と共にいるように、私たちと共におられる。このイメージを一番よく理解するため、私はオンラインでめんどりと雛のYouTube ビデオを鑑賞した。

私が学んだのは、キリスト者のような雛がしばし大混乱を引き起こそうとしていた。雛は“共にいる”ことが簡単ではない。哀れな母めんどりは雛を危険から遠ざけている。。しかし雛はできる限りのことをして頭から真っ直ぐに問題へ突き進む。神は母めんどりのように私たちにとどまり、私たちの悪い判断から私たちを遠ざけられる。他のYouTube のジャンルで面白かったのは、母めんどりがこれらの可愛い雛によって悩まされていることだった。雛はこれらの哀れな母めんどりをつつき、背中のあるゆる所に乘ったりしている。神は母めんどりのように私たちと共におられる、私たちの母としての神が、雛につつかれても、跳ねられても、みっともない攻撃にさらされても。神はとどまれ、私たちと共におられる。

また“神が共にいる”と感じられるものがある。この箇所では神は私たちのうちにおられると私は読んだ。それをどのように想像するのか？ 神は私たちの一部として私たちのうちにおられる。再び手助けになる隠喩がある。神は私たちの力であると想像してみる。イザヤは言う『恐れることはない。わたしはあなたと共にいる神。たじろぐな、私はあなたの神。勢いを与えてあなたを助け、わたしの救いの右手であなたを支える』(41:10)。あなたの体の中で、神があなたを強めている感覚を想像しよう。まず最初に体の力として描いてみる。予想したよりさらに進む、あるいは速くなる感覚があるかもしれない。幸福感と喜びの感覚。しかし体の強さを感じるより、もっと強いものがある。

忍耐の神として私たちのうちにおられる神の強さを想像してほしい。よい時も悪い時も、私たちは弱くなったり嫌になったりはしない。深い井戸の水のように、私たちのうちにおられる神の力を想像してほしい。前進することができないと思える時、それが嘆き、苦痛、不公平であるなら、各々の私たちは、井戸の水を汲み上げるようにして神の強さを引き上げる。そして私たちのうちにおられる神の忍耐強さによって、私たちはリフレッシュされる。暑い日や多忙な日に、冷たいガラスの水でリフレッシュできるような神を想像する。あなた自身のなかで、快適でない時やリフレッシュして快適である時の神を想像する。神はいつも私たちと共におられる。神は私たちと共にとどまれる。

私は祈りの中で私たちに臨在される神が聞こえる。神は祈りとして私たちの中におられる。私たちが捧げる公式の祈りのなかに神は私たちに共にどどまれる。神は私たちの祈りを聞かれる。そして又、私たちの祈りの中におられる神を想像してみる、歌い唱える言葉が振動するように、神は私たちに満たしてください。あなたと息をするように、あなたと共にとどまれる神を想像してみる。



神は不変の協力者であり、母なるめんどりであり、あなたの内にある力である。  
あなたの内におられる神は、祈りの音色や呼吸のようなものである。  
これらは神が私たちと共におられる聖書上のイメージである。

聖書上のイメージは私たちの共同体への贈りものである。  
そしてここでも、今も、私たちは世界のメンバーである。  
そして又、現代のイメージのなかに神がおられるのを想像してみる。  
神はどのように各々の私たちと共におられるのか、私は以下のように見ている。  
高校一年 (Grade10)の化学を思い出してほしい。宇宙のすべては元素で成り立っている。  
原子核、電子そして陽子である。それらにほんのわずかの空間がある。  
聖霊は体の微粒子空間のすべてを埋めている。  
私たちは聖なるもので作られていると私は信じる。  
すべての行動、すべての呼吸と共に、私たちは聖霊によって満たされている。  
私たちを見てみると、各々の方に、すべての各々の方の中に、聖霊が存在している。  
あなたが自分の賜物をこの世で共有する時、あなたの中に聖霊が存在しているのが見える。  
私たちが触れるすべてのものは、聖霊の聖なる癒しのエネルギーによって触れられる。  
神は私たちの内におられる。

ともあれ、聖霊は私たち共におられることを想像しよう—この箇所のメッセージは明確である。神が私たち共にとどまれることを信頼しよう。

信頼することの意味は、その後のある時に神がお見えになるのを待っているのではない。  
神が私たちと共におられるのを待っているのではない、それがより信仰が厚くても、  
より祈っても、より罪が少なくても。  
私たちは神が現れるのをのを待っているのではない、教会や共同体が大きくなるまで、  
あるいはもっと活動的になるまで。  
聖霊は私たちと共におられ、今、私たちの内に宿られる。  
私たちは今の生活の中で、共同体の中で、神を探すことができる。

畏敬と栄光、予期せぬ和解を求める。奇跡を求める。私たちが望んだり期待したことが  
得られなかったとしても、信頼しよう。それは神が臨在されていないという意味ではない。  
神が私たちと共に存在され続けるのをより理解するために、長い表が必要かもしれない。  
今週の日課、〔聖霊〕は私たちのうちに生きており、私たちの中に存在している。

(文責長澤猛)